

## ◆保護者のニーズ

- ・手づかみ食べが多い
- ・注目の維持が難しい、模倣が苦手
- ・身の回りの事が少しずつ出来るようになると良い

## ◆行動の分析

- ・活動の終わりが本人の区切りになっていて、終わりが分かりづらい
- ・やり取りは出来ているけど、続かない  
(理解力、イメージ化、語彙の数、概念化、持続的注意の問題)
- ・呼びかけることはある(どんな人でも、どういう場面でも、とりあえず話している)
- ・感情の共有(情動的な働きかけ)はみられない  
→人に対する関心が出てきている(話したら面白い、伝わったら楽しいなど情緒性が発達)
- ・スケジュールのやり取りが曖昧で、ルーティンになりづらい  
→どれくらい内容を理解出来るか、その後の活動内容の確認をどの頻度で入れていくか

## ◆SAP 目標

子どもの目標		大人の目標	
JA1.2	短い相補的な相互作用を行う	IS2.3	始発のターンと応答のターンのバランスをとる
JA4.1	欲しい食べ物または欲しい物を要求する	IS1.1	活動に明確な始まりと終わりを定める
MR3.2	相互作用を求めてポジティブな情動を共有する	LS1.4	繰り返して学習する機会を与える

## ◆今後の方向性や活動案

好きな活動(魚釣り、パズル)

- ・「あと〇個釣ったらおしまい」など終わりを示す
- ・「終わったね」「やったね」など終わりを楽しむ機会を作る
- ・釣り竿の長さを変えて、釣りにくい時に相手に要求する機会を作る
- ・釣り竿に選択肢を設け、交渉して受け取るようにする
- ・相手を見て言う、指差さないと受け取れない設定(構造的に選択、働きかける機会を作る)
- ・足りないピースを作り、「〇〇が持ってるよ」と伝える  
→目的があることで、相手の応答を待つ機会を作る
- ・スケジュールは、終わったら入れる、カードを移動する、シールを貼るなど終わりを意識させる
- ・活動ごとに1度スケジュールを確認する場所へ戻ること、 “一緒に始めて一緒に終わる” 共同する活動を繰り返し、交渉や提案へと繋げる
- ・人に助けを求めたらどうにかしてもらえた実感から相互的なやり取りが展開される機会を作る